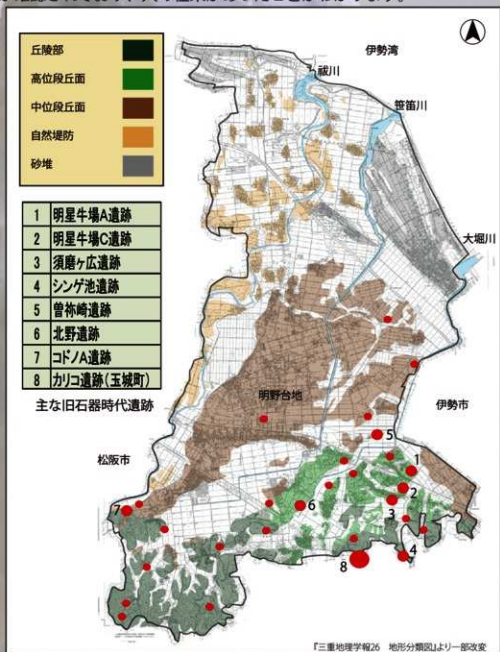




日本の旧石器時代は、約3万4000年以前の中期旧石器時代にさかのぼるものは少なく、ほとんどは後期旧石器時代に属します。当時は最終氷期にあたり、海水面が現在よりも100mほど低かったと考えられており、そのときに現在の日本人の祖先がユーラシア大陸から渡ってきたと考えられています。当時は土器を持たず、定住もしなかったと考えられていますが、県下でも大規模な遺跡として確認されているのは、大仏山周辺のカリコ遺跡（玉城町）などがあります。

明和町の旧石器時代の遺跡は計27遺跡が確認されていますが、県内のほかの遺跡と同じく、石器だけが単独で出土したり、畑などから表面採集したりしているため、詳しいことはわかっていません。ただ、旧石器時代に特徴的なナイフ形石器や尖頭器せんとうきなどが確認されています。ナイフ形石器は、地域や時期によってその作り方に違いがあります。石器の形や、約3万年前に降った鹿児島県の火山灰（始良丹沢火山灰）を基準にして考えると、町内で確認されている旧石器はおよそ2万5000年前から1万3000年前のものと考えられます。

また、県内と明和町の旧石器の石材は、チャートが9割以上を占めています。チャートは川原などから採取しやすく、うまく割れば刃を作り出すことができました。そのほか、岐阜県の下呂石や奈良県のサヌカイト、長野県の黒曜石くろようせきが確認されており、人の往来があったことがわかります。



# ナイフ形石器の作り方

石器の素材となる石（石核）を  
決まった角度から叩くと刃のつ  
いた縦長の破片（石刃）が剥が  
れます。この石刃に細かな加工  
をして、ナイフ形石器が完成し  
ます。

明星牛場C遺跡  
石刃（チャート）

石刃のままでは、両方が刃と  
なっていて、持ち手の部分が  
ないため、刃の反対側は刃潰  
し加工を行います。

刃の部分

持ち手の部分（刃潰し加工をし  
た痕跡が観察できます。）

明星牛場C遺跡  
ナイフ形石器（チャート）

明星牛場C遺跡  
ナイフ形石器（チャート）

## ナイフ形石器の完成！！

サヌカイト

下呂石

そのほか、シカなどの大型  
獣の狩りの際、槍先に着け  
たと考えられる木葉形尖頭  
器が数例確認されており、  
ナイフとヤリを駆使して氷  
河期を生き抜いた姿が想像  
されます。

このほかせんとうき  
須磨ヶ広遺跡 木葉形尖頭器（チャート）

町内出土の様々な形のナイフ形石器（左端2つ以外はチャート）